

第2回「地域フォーラム」概要

開催テーマ「だれもが暮らしやすい大和高原(東吉野)を目指して」

日時 平成25年12月15日(日)13時～15時30分

会場 宇陀市榛原総合センター 3階 大ホール

<p>挨拶・ 資料説明</p>	<p>荒井奈良県知事 ----- 地域フォーラム開催の挨拶 大和高原(東吉野)地域の現状等について説明  <ul style="list-style-type: none"> <li>・産業振興の強化と安定した就業の場の確保</li> <li>・安全、安心、快適な生活を支える社会基盤の整備</li> <li>・地域の魅力資源を活用した観光・交流・定住の促進</li> <li>・地域を支える人材の確保</li> <li>・財源の確保 など</li> </ul> </p>
<p>取組説明 ①</p>	<p>竹内宇陀市長 ----- 宇陀市の現状と行政の取組について説明  <ul style="list-style-type: none"> <li>・宇陀市で取り組んでいる3つの大きな政策(産業振興、ウェルネスシティ宇陀市、市民協働)</li> <li>・心も体も健康になるウェルネスシティ</li> <li>・地域の健康に対する意識の向上 など</li> </ul> </p>
<p>取組説明 ②</p>	<p>窪田山添村長 ----- 山添村の現状と行政の取組について説明  <ul style="list-style-type: none"> <li>・山添村の立地環境</li> <li>・「小さくても輝きみなさんと共に『いい村づくり』」をスローガンにした5つの目標</li> <li>・老朽化した防災無線の更新</li> <li>・コミュニティバスの運行や過疎地有償運送による公共交通対策</li> <li>・総合検診の実施と医師や保健推進員等によるその後の健康管理のフォロー</li> <li>・旧保育園跡地を活用した若者等の交流拠点事業の展開</li> <li>・神野山観光PRの実施 など</li> </ul> </p>
<p>取組説明 ③</p>	<p>徳田曾爾村副村長 ----- 曾爾村の現状と行政の取組について説明  <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本で最も美しい村連合への加盟</li> <li>・集落点検事業による地域資源の掘り起こし</li> <li>・曾爾村元気な集落づくり支援事業の実施 など</li> </ul> </p>
<p>取組説明 ④</p>	<p>鈴木御杖村長 ----- 御杖村の現状と行政の取組について説明  <ul style="list-style-type: none"> <li>・御杖村の立地環境、産業の状況</li> <li>・若者定住促進プロジェクトチームによる取組の推進</li> <li>・奈良県立大学と連携した寺子屋事業の実施</li> <li>・空き屋利用の促進 など</li> </ul> </p>
<p>取組説明 ⑤</p>	<p>水本東吉野村長 ----- 東吉野村の現状と行政の取組について説明  <ul style="list-style-type: none"> <li>・東吉野村の人口推移</li> <li>・携帯電話使用エリアの充実</li> <li>・コミュニティバス運行による住民の交通手段の確保</li> <li>・林業振興のための作業道の整備</li> <li>・東吉野産材を使った建物建替例の全国への情報発信 など</li> </ul> </p>

意見発表 ①	井上氏(宇陀市在住 女性) 運動を通じた健康長寿の推進について
	<p>私は、健康運動指導士として民間のフィットネスクラブや各自治体において健康づくりのための運動を指導しています。約10年ほど前から宇陀市の保健事業に関わらせていただき、現在は宇陀市の「ウェルネスシティ構想計画」のプロジェクトメンバーとしても活動をさせていただいております。今日は宇陀市での活動の様子について発表させていただきます。</p> <p>今回のテーマでもある「だれもが暮らしやすい大和高原(東吉野)」を目指すために一番大切なことは、そこに住む方々が元気であることであり、健康であることだと思います。都会に行けばたくさんの運動施設や民間のフィットネスクラブがありますが、田舎に行けば行くほどそのような施設は少なく、運動する機会も少ないのが現状です。だからこそ、私たち運動指導者と一緒になって、健康づくりに関する取り組みを行政に力を入れていただきたいと思います。</p> <p>私が運動指導の仕事に携わるようになって25年になりますが、1つ言えることは、正しい知識を持ち、正しい方法で運動を継続すれば、年齢に関係なく体力は向上するということです。体力が向上すれば心のゆとりができます。心のゆとりができれば生活を楽しむ余裕が出てきます。そして、結果的には病気の予防、医療費の削減、介護予防につながり、平均寿命と健康寿命の差も縮まるはずです。</p> <p>実際、水中ウォーキングの教室に長く参加して下さっている80代後半の女性は、ある日、私に次のようなことを伝えに来てくださいました。「先生、今夜の飛行機でイギリスに住んでいる娘のところに行くから、しばらく教室は休むわね」と。夜に娘さんの住むイギリスへ旅立つ日の昼間に水中ウォーキングに来られる体力を維持されているのです。また、ある83歳の男性は、教室で知り合った仲間と、今でも自分で車を運転して遠方まで温泉旅行に出かけられています。このように元気に歳を積み重ねていくことは誰もが望む姿ではないでしょうか。</p> <p>現在、宇陀市では「健康長寿、元気なまちづくり」を目指して着々と準備を進めていただいています。その取組について紹介させていただきます。まず、保健センター主催による積極的な運動教室の開催、誰でも気軽に参加できるウォーキング講習会やラジオ体操の普及、各地域における運動サークルの立ち上げなどを行っています。高齢化や核家族化が進む中、定期的な運動教室の開催は地域のコミュニティづくりに役立ち、高齢者の見守り機能も果たすことができます。</p> <p>また、宇陀市の画期的な取組として、運動教室に参加できない方々に向けて、家で手軽に運動していただくために「あなたもできるうだ体操」というエクササイズビデオを作成しました(DVDで映像を上映)。また、DVDだけでなく、宇陀市ケーブルテレビ「うだチャンネル」を利用して毎日定刻に運動を紹介しています。</p> <p>今後、健康づくりを進めていくうえでの課題としましては、現状ある宇陀市の運動施設の活性化や有効活用、健康づくりに関する積極的な情報発信、運動教室開催数の増加、気軽に運動できる環境整備などが挙げられます。</p> <p>宇陀市が今、力を入れて取り組んでいる「ウェルネスシティ構想計画」は、確実に病気の予防、医療費の削減、介護予防につながっていくはずで、「誰もが暮らしやすい元気なまちづくり」のために、運動指導者として、皆さんの健康づくりに貢献できるようにこれからも活動を続けていきたいと思っています。</p>

意見発表 ②	東氏(山添村在住 男性) 公共施設の跡地利用や耕作放棄地の再生等による地域活性化について
	<p>公共施設の跡地利用と耕作放棄地対策の取組について意見発表します。まだ始めたばかりの取組で軌道に乗っていませんが、山添村が抱える多くの課題を解決するための一助となればと思ひ報告します。</p> <p>定年退職後、すぐに地区の自治会役員が回ってきましたが、集落の40%以上が65歳以上の高齢者で、自治会の役員を構成することすら困難になっている状況でした。そのような中、ボランティア活動による道路の草刈りをはじめ、高齢者が色々な奉仕活動に参加し、地域を支えています。人口減少、少子高齢化、空き家の増加や有害獣等による農業離れに伴い、耕作放棄地が非常に増えてきています。このような状況で、自分たちに何ができ、何をしなければならないか、地域で話す機会も多くなりました。</p> <p>村内の若者は山添村から出たがりますが、村外の方々は山添村を「自然がいっぱいで環境のいいところ」と言われますし、名阪国道があり、非常に便利なところ。農業体験による都市住民と地域住民の交流を通じ、豊かな自然や景観を活かして山添村の魅力を見つけ、地域の活性化を図りたいと思ひ、村で利用していない公共施設(旧保育園跡地)の活用と耕作放棄地、未利用地の再生と雇用創出対策の取組を今年の4月から始めました。</p> <p>奈良県や山添村、そして連携する団体の協力でスタートし、第1回のイベントを9月11日に開催しましたが、都市住民にも呼びかけ、県内外の若い方たちも30名ほど参加され、「将来は山添村みたいなきれいな村に住みたい」、「田舎暮らしをしたい」という方もいました。旧保育園の清掃や、耕作放棄地の整備、野菜の種まきなどで交流を図りましたが、山添村についての印象としては、自然がいっぱいある本当にきれいで環境のいい村ということで、住んでみたいという方もいました。その後、第2回のイベントも開催し、年末に第3回のイベントを計画しているところです。</p> <p>もう一つの取組として、元プロ野球選手が運営する中学生の野球クラブが山添村の公共グラウンドで毎週末練習していますが、自然いっぱい村なので野球だけでなく色々な体験や学習もさせたいということで、農業体験を行うことになりました。耕作放棄されている優良農地を借り受け、荒れた農地の回復に地域の方々の協力を受けながら、サツマイモの植栽や夏場の除草作業などをしました。子どもたちにはこのような経験が余りなく、野球とはまた別の生き生きした一面が見られました。</p> <p>来年は年間計画を策定し、子どもたちが3年間の経験や体験を通して大きく成長し、山添村での思い出を残してもらいたいと思っています。子供たちが卒業し、「山添村」という文字から3年間通った村であることを思い出し、山添村のPRにつながればいいと思ひます。</p> <p>今後の取組としては、県の各部局や山添村からの指導や助言をもらいながら、国の支援も受けて取り組んでいき、将来的に子どもたちの保護者や近隣市の都市住民の方々も対象にしながら、農業体験の場として貸し農園的な取組を行っていきたいと思ひます。</p>

意見発表 ③	森田氏(曾爾村在住 男性) 観光産業の活性化による曾爾村観光振興公社での若者雇用の確保について
	<p>私は、数年前に曾爾村に移住し、曾爾村観光振興公社で働いています。私にとって曾爾村は、今回のテーマ「だれもが暮らしやすい大和高原(東吉野)」そのものです。</p> <p>今日は曾爾村観光振興公社の仕事を中心に意見発表します。公社は曾爾村の指定管理者として観光事業を運営しています。観光事業としては、日帰り温泉、レストラン、野菜の直売所、地ビール工場、米粉パンの製造販売、オートキャンプ場、30棟ある市民農園、そして食品加工を行っていきまして、これらの事業で昨年は年商約3億3千万円という実績でした。</p> <p>観光事業は、お客様商売ですので、従業員、お客様というように、どうしても人に目が向きます。公社の従業員は正職員20名、常勤パート20名、季節パート20名、合計約60名の規模で運営をしていきまして、従業員数では、役場に次ぐ曾爾村の一大事業所になります。</p> <p>特に最近の傾向としましては、曾爾村で生まれ、高校を卒業した新卒者を毎年採用しています。村内に勤めるところがないと、遠くまで通勤するか、村から出てしまうことになります。村では若者定住住宅という形で村外から若者を呼び込む事業を行っていますが、公社には曾爾村で生まれ育った人に曾爾村で働いてもらう受け皿としての大きな役割があると思います。</p> <p>ただ、曾爾村で生まれ、曾爾村に就職すると、狭い世間で生きていくことになります。せっかく曾爾村で生まれ、曾爾村で働くからには、単なる収入の場所としての役割だけではなく、働きながら曾爾村で十分な社会性や商業の能力を高める責任を公社が持っているのではないかと感じていきまして、接客業の講習会や、色々な面での知識、人間形成の研鑽の場としての職場でありたいと思っています。</p> <p>昨年は社内で講師を呼んでセミナーを開催しましたが、先日宇陀市商工会が主催する「おもてなしセミナー」を受けることができ、経費的にも非常に助かりましたし、他の市町村の方と一緒に講義が受けられて、公社の従業員も色々と考えるところがあったのではないかと思います。</p> <p>若者の問題もありますが、村にはお年寄りもいます。その生きがいや健康のため、長く働いてもらいたいので、食品加工場を持ち、多くのお年寄りにパートとして来てもらっていますが、それほど大きな成果が出ていません。6次産業と呼ばれるものについて、県などから色々な指導を受け、村の特産品を使ってブランド化できる商品をつくりたいと思っています。</p> <p>また、もう1つ大きな課題はアクセスです。名張から来る県道81号線の整備がまだまだ進んでおらず、車がすれ違えない場所が数箇所あります。ここは生活道路でもありますが、観光用の道路でもあり、青蓮寺湖辺りから曾爾村まですばらしい景色です。この道路がそのまま観光資源になるといいますので、これが2車線の道路になると、曾爾村やその周辺の観光も大いに賑わうのではないかと思います。</p>

意見発表 ④	青海氏(御杖村在住 男性) 奈良の林業の現状と地域に合った森林整備や林業での若者雇用の確保について
	<p>私はもう50年近く森林組合に携わっていますので、今日は林業をテーマに意見発表します。内需が低迷する中、木材産業を取り巻く環境として、住宅耐震化による構造変化のため、杉、ヒノキとも長期にわたって価格が下落しています。</p> <p>国の施策で森林・林業再生プランというものが決まっていますが、森林法改正に伴う森林経営計画の策定が進まない中、間伐事業量の落ち込み等による森林整備の遅れで、山村の林業活性化や森林整備はさらに厳しくなっています。そのため全国一律の森林経営計画を見直し、奈良県の実態に即した形での森林経営計画の策定を可能とするための要件緩和を国にお願いしたいと思います。</p> <p>奈良県では全国に先立ち、森林環境税を財源として施業放置林の整備を進めています。これは、環境保全林や災害に強い山づくり、将来の木材生産林、また林業従業員の雇用確保にもつながり、地域に即した環境林整備事業だと考えられますので、奈良県でやっているこのような森林整備を国でもやってもらいたいと思います。</p> <p>この地域では、磨き丸太を目的として、1ha当たり7,000本から1万本の植林(密植林業)をしてきましたが、そのほとんどが放置されています。この地方では伐捨間伐が森林整備の一番大事な時期なので、伐捨間伐を推進するためにも国に造林補助事業の基本計画となる森林経営計画の採択要件の緩和をお願いしているところです。</p> <p>内閣官房国家戦略室の梶山恵司氏の著書「日本の林業はよみがえる」によると、全国の森林の状況は林業先進地以外、放置林が多く、除伐、枝打ち、間伐をせずに植えっ放しで、市場に出しても競争して買い手が買うような材が少ないとのこと。また、補助金をもらって出荷しても、伐採、造材、集材、運搬費、市場経費の合計が売上を上回り、代価は1円も山主に入りません。現在行われているような集約化した木材生産搬出現場では、大型機械が林内に入り、土壌を崩し、悪い木を残し、立木を傷だらけにして、良い木から搬出、間伐して山の財産価値を下げ、森林を適切に維持管理する道も整備されていないなど、森林組合としても、森林経営計画を立てるために責任を持って組合員と協定が結べません。さらに深刻なことに、九州などでは皆伐も拡大しています。一度皆伐すると土壌は流出して崩壊し、生態系を乱すので、治山・治水等、環境面で大きな問題となります。また、再造林には、皆伐による収入を大幅に上回る経費がかかるため、そのまま放置するか、仮に再造林する場合も、巨額の補助金を前提としなければ持続可能な森林整備ができません。このようなことがこの著書には書かれています。</p> <p>次に、林業の若い後継者の確保と働く職場づくりについてです。少子高齢化社会の時代に村も年々人口が減少しています。村の基幹産業である林業も若年層の定着はほとんどなく、現在、森林整備や木材生産はシルバー人材センター会員など、70歳前後の年齢層で行っています。これからの林業の喫緊の課題は、労働力の確保と危惧を覚悟して、国の緑の雇用制度を活用しながら、森林作業班に若年層組合員職員を採用し、林業の技術の習得、雇用安定、就労条件の改善など、若者の将来が保証される魅力ある職場をつくるのが急務だと考えます。</p> <p>そこで、昨年度に南部振興プロジェクト検討事業として、木質バイオマスが豊富に存在する曽爾、御杖の両村をモデル地域として木質バイオマスエネルギーの供給システムの構築を検討してきました。木質パウダーを両村の温泉の燃料に利用し、間伐材の有効利用と雇用の安定を目標に、県と村と森林組合で調査してきましたが、今は運営と採算面でどのように進めるか検討しているところですので、県の指導をお願いします。</p>

意見発表 ⑤	坂本氏(東吉野村在住 男性) 実体験に基づいた都市部から田舎への移住促進、クリエイティブヴィレッジ構想について
	<p>「だれもが暮らしやすい大和高原(東吉野)を目指して」について、都会から田舎へ移住した実体験を踏まえ、意見を発表します。</p> <p>まず、移住のきっかけですが、当時の仕事にも関係しています。当時、私はグラフィックデザイン、建築デザイン、衣食店舗の総合プロデュース、企業の企画、デザイン顧問等、幅広い仕事を手がけていまして、オーバーワークで体を悪くしてしまいました。数週間のベッド生活の中、今までの仕事やこれからの人生についてゆっくり考える時間ができ、その時にふと幼い頃の記憶が蘇りました。私は中学生の時に1年間、山村留学の制度を利用して東吉野中学校に通っていたことがあり、里親さんのもとで、都会とは違うすばらしい環境で1年間、伸び伸び楽しく暮らしていました。村に友達がたくさんできて、別れがつかなくなったことを覚えています。</p> <p>今なら楽しかった思い出の場所で暮らせるかもしれないという思いつきから、東吉野村への移住を決めました。もちろん、多くの障害や不安はありました。山深い田舎の村で今までどおりの仕事ができるか、買い物に車で20分かかる場所で生活できるか、地域の人たちは受け入れてくれるか。しかし、今となっては、そのどれもが取越し苦労でした。インターネットのおかげで仕事はほとんどパソコンでできますし、内容によっては先方へ出向きますが、車を運転すれば近畿圏は十分仕事になります。生活も、東吉野村での1年間の経験のおかげで、すぐになじむことができました。そして、移住前には気付かなかった田舎に住んで仕事をするメリットも見つかりました。</p> <p>同業他社が少なく、すぐに自分を覚えてもらえます。他の人でもできる仕事は来なくなり、静かな環境の中で集中できるので良い仕事ができます。生活面でも村の方々が何かと気にかけてくれて、若いというだけで大事にしてもらえます。余談ですが、先日村長からも、仕事や生活など、色々話を聞いてもらいました。都会で仕事をしていると、このようなことは起こらなかったと思います。</p> <p>このように田舎に移住した私のところに、都会で同じような仕事に携わるクリエイターたちが遊びに来るようになり、そのうちの数人から田舎に移住して仕事したいという相談を受けました。村の方々や役場の皆さん、山村留学時の里親さんなど、様々な方々の助けを借りて移住できる空き家を探し、現在2組の若い夫婦が大阪から東吉野村へ移ってきました。</p> <p>今までは田舎に住み、都会で働くスタイルでしたが、一緒に働ける友人が来てくれたため、田舎に住み、田舎で働くスタイルに切り換えていきたいと思いますので、今後は身の回りにある素材や場所、人を最大限に利用し、田舎から都会へ発信できる様々な企画や商品をデザインしていきたいと考えます。</p> <p>都会から田舎に移住したいと思うクリエイターの方々はまだまだいます。そのような方々の背中を少しでも押せるように、多くの人たちと協力して、新たなライフスタイル、ワークスタイルを田舎でつくっていきたくて考えています。その具体的な手法として、「クリエイティブヴィレッジ構想」という構想を企画しました。</p> <p>本構想の要点は2つあります。まず、移住先のライフスタイルを体験できる施設を用意します。東吉野村では、シェアオフィスを計画しています。先頃、移住を決めた2家族も3年ほど私の家と大阪を行き来していました。季節のいい夏や秋頃に、合宿と称して東吉野村で一緒に寝起きしながら働き、田舎でのライフスタイルを想像してもらえよう、段階的に田舎での働き方を体験してもらうことで、移住への障害を少しずつ取り除いていくことが狙いです。</p> <p>もう一つは、移住対象者の絞り込みです。インターネットと物流があれば働ける業種が徐々に増えてきています。その多くはクリエイターと呼ばれる仕事を生み出す職種の方々に、彼らに積極的に移住を呼びかけることで、活動を加速させるとともに、企画・広報の対象を絞り込む狙いがあります。クリエイター以外は断るということではありませんが、まずはクリエイターに新たな仕事を創出してもらうことで、その後に移住を考える新たな職種の方々を呼び込む材料になると考えます。</p> <p>水の波紋が広がるように、この構想が広がれば各地域に新たな特色を持った仕事生まれ、そこに人が集い、相互に関係を持ち、影響し合って広がっていく、それが「クリエイティブヴィレッジ構想」です。その波紋の最初の一滴になれるよう、この構想に賛同してもらえる皆さんと協力して進めていきたいと思っています。スキルを持った方々が地方に散らばり始め、地域のコミュニティに参加することで、都会にあらゆるものが集中する現在の形が是正されて新しい形がつかられていく、それが「だれもが暮らしやすい大和高原(東吉野)」の形ではないでしょうか。</p>

先進事例 発表	奈良県立大学地域創造学部 麻生教授 過疎地での若者雇用確保の先進事例として「百年の森林構想のもとでの村づくり(岡山県西粟倉村)」について説明 <ul style="list-style-type: none"> <li>・百年の森林構想</li> <li>・百年の森林創造事業</li> <li>・西粟倉村・森の学校事業</li> <li>・百年の森林事業</li> <li>・西粟倉村の課題と事業効果 など</li> </ul>
------------	--

パネルディスカッション

意見①	竹内宇陀市長 井上さんの意見発表についてですが、宇陀市では、筋力運動を推進しながら、高齢者が地域で本当に安心して住める仕組みづくりをしていきたいと思っています。そのためには、市民の方々に理解していただかないといけません。運動教室へ大体30%ぐらいの方は常に参加していますが、残り70%は参加しない傾向にあるそうなので、参加者を増やす方法も含めてこれから進めていきたいと思っています。 宇陀市では新しいまちづくり、地域のまちづくりとして、地域にまちづくり協議会を設立していただきたいと思っています。今年度中にほとんどの地域でまちづくり協議会がつくられるのではないかと考えています。また、各担当部署で一つずつ課題をつくり、それに対する「ウェルネスシティ」の政策を具現化していきたいと思っています。 例えば、市立病院で健康に対する医療講演会を開催するとか、保健センターで何月何日に定期検診を行うとか、そのようなキャンペーンをしながら、各課から課題を募り、宇陀市の健康に対する意識を高めたいと考えています。これらは、奈良県の協力もいただきながら、色々と計画して進めていきたいと思っています。
-----	--

意見②	窪田山添村長 東さんから意見発表がありました。現在、保育園施設跡地を利用した取組を行って、県からも支援をいただいています。 また、耕作放棄地もたくさんあり、利活用していない公共施設跡地も3つほどありますので、今後は今の取組を手本に、若者定住と合わせて都市との交流を深めていきたいと考えています。 山添村は田舎ですので空き家もたくさんあり、その利用方法や活動について村も指導していきたいと考えていますので、住民の方にも頑張ってください、これを手本としてもらいたいです、村としても支援したいと思っています。
-----	--

意見③	徳田曾爾村副村長 森田さんの意見についてですが、曾爾村観光振興公社は独立採算でやっています。村の財政が苦しい時には寄附金をいただけて助けてもらったこともあります。 加工場を利用した6次産業の取組については、来年度からもう少し本格的に取り組んでいきたいと思っています。 また、曾爾村から名張に通じる県道名張曾爾線について、紀伊半島サミットの際に、荒井知事から三重県知事に話題にいただきましたが、奈良県と三重県の県境辺りは非常に狭い道が多く、そのような県境対策に県の力も借りて取り組んでいきたいと思っています。
-----	--

意見④	鈴木御杖村長
	<p>御杖村では、村の基幹産業である農林業の振興や雇用対策に一層取り組んでいきたいと思っています。特に青海さんが意見発表した森林経営計画の見直しについて、奈良県の実態に即した森林経営計画の策定が可能となるよう、国への要望に努めていきたいと思っています。</p> <p>また、県にも協力いただいている南部振興プロジェクト検討事業での木質バイオマスエネルギー供給システムの構築については、御杖村としても大いに期待していますので、今後も県や森林組合と関係市町村で連携し、木質パウダーを利用したペレット製品開発や市場拡大を図る取組に力を注いでいきたいと考えています。</p>
意見⑤	水本東吉野村長
	<p>坂本さんから意見発表があったように、空き家を活用して移住する第1号の方がこの12月に村に移ってきます。10月頃、どのような思いで東吉野に来てくれるのか、村をどのように思っているのか聞いたところ、地域になじめるか、受け入れてもらえるか心配だったということでした。そのような方が地域となじめるように、村もできるだけサポートしていきたいと思っています。</p> <p>また、まきストーブの設置には補助金を出して推進していますが、まきストーブのまき作りにチェーンソーがいる、軽トラックがいる、その他にも草刈機がいるなど、それらを近所の人から何度も貸してもらうのは心苦しいという悩みがあるという話も聞きましたので、役場からそんな物が借りられるようにすぐ対応しました。その他、空き家の改修についても補助制度をつくり、この12月に提案しました。</p> <p>「クリエイティブヴィレッジ構想」については、村も共にやっていきたいと思っておいて、シェアオフィスの整備についても、これから話をして色々な方法で進めていきたいと思っています。</p>
意見⑥	荒井奈良県知事
	<p>宇陀市の井上さんから発表のあった健康長寿は奈良県の願いでもあります。今日の資料にも市町村別の健康寿命の指標がありますが、この地域は優秀な方だと思っています。男性の健康寿命は全国平均を上回っており、女性も概ね上の方です。</p> <p>また、がんの標準化死亡率について、たまたま曽爾村が大変高いですが、検診率はいいです。がんになることはわずかの差ですので、努力すれば下げられると思います。健康で長生きするための大事な要素は、運動、食事、外出、生きがい、そして検診だと思っています。寝たきりの回避、要介護状態に近づかないよう努力すれば、都市と田舎の差はありません。田舎でも健康で長生きできることが示されています。その中でも運動は大変大事です。</p> <p>意見発表のあった運動の中で、フィットネス、エアロビクスの話がありました。奈良にはエアロビクスの協会がありませんが、先週、ある会社の方が来られて「2年後、エアロビクスの全国大会を奈良で開催したいので、応援してもらいたい」ということでしたので快諾しました。体育協会にもエアロビクスを入れたいですし、シニアの方にもシニアエアロビクスがあるそうなので、そのようなことができたらいいいと思います。</p> <p>山添村の東さんが意見発表されましたが、交流拠点が必要ということがよくわかります。県ではシニアの方のためにシニアカレッジをつくらうという構想を持っています。高校の先生に高校の教科書を教えてもらう構想で、これを県立大学でしようと思っておいて、外出していただくいい機会になると思います。交流拠点として地域交流のパターンをつくることも考えています。</p> <p>耕作放棄地対策の1つとして、奈良県は漢方を奨励しようと思っています。この地域は漢方が歴史的に優勢でした。来週、東京で神奈川県知事と富山県知事と私の3県知事が、慶應義塾大学の渡辺賢治先生と一緒に、日本で漢方を振興しようという構想の会見をします。まず、奈良県では立派な生薬を栽培しようとしておいて、当帰(トウキ)という生薬に焦点を当てて、薬効の高い当帰を農業の研究所でゲノム研究し、いい種苗ができれば耕作放棄地で植えてもらうという構想、薬効の高い世界一の当帰をこの地域でつくるという構想です。それを製薬につなげる漢方のメッカ構想を今進めておいて、来年は飛躍する年になると思います。</p> <p>曽爾村の森田さんが意見発表されましたが、地域を訪れる方をどのようにおもてなしするかということは、奈良県全体の課題です。先月、熊本に海づくりの大会へ行った時に、水俣の湯の児というひなびた温泉地へ行きましたが、地域の若者をホテルで雇用し、立派なホテルマンになる教育を経営者自ら先頭に立って行っていました。若者にホスピタリティーを知ってもらう訓練を兼ねてホテル経営をしておいて、お客さんも戻ってきています。やはり熱意があると、そのように違うんだと感銘しました。田舎のホテルで働いたら将来どうなるのか、田舎の若者は不安に思いますが、大丈夫、これで一生生きがいのある暮らしができるというように、先が見えるようにすることを手繰っていました。</p>

奈良県では、田舎の交流施設で働いても立派な人生を送れるというようなキャリアパスをつくりたいと思っていますが、桜井市安倍にオーベルジュ(ゆったりとおいしい料理が楽しめる宿泊付きレストラン)という料理人の研修施設、田舎の旅館を経営する研修施設をつくろうと思っています。世界一の料理人をつくろうという目論見です。世界一の料理人学校はニューヨーク近郊にあるCIAとスイスのローザンヌにある2校が世界の双壁でして、CIAは料理人のハーバードだと言われている伝統ある組織です。そのCIAのシステムを安倍に植えつけたいと思っています。世界一の料理人の双壁に、3つ目のピークをつくりたいと思います。そうすると料理だけでなく、ホスピタリティーも大事です。そのようなことを習った方は田舎でも立派なレストラン、あるいはオーベルジュができるというコンセプトです。田舎から来てそこで働き、研修して独立し、レストランやオーベルジュをつくってもらおうというビジネスモデルをつくっていききたいと思います。

御杖村の青海さんが意見発表した林業についてですが、先日、東京で初めて奈良の木材をプロモーションしました。早稲田大学の古谷先生という建築・設計の先生に、日本トップレベルの建築家、設計家を呼んでもらい、奈良の木を売り込んできました。奈良の木を使ってもらうため色々な工夫をされていますが、宇陀辺りの集成材を使った利用についても売り込みました。

木材の値段が上がらないのは、世界の構造的なことがあると思います。今まで値段が上がってきたのはTPPにも関係しますが、開発途上国で森林の乱伐が随分進んだため、それにより環境も悪化してきました。代わりに輸出するものはないか探し、例えば、日本がトロピカルフルーツをもっと輸入するとか、それも駄目と言っているとなかなかいい関係が築けないというように、構造的な問題があると思います。日本だけ生き残ることはなかなか難しくなっていますので、外国の生産地との共存共栄を、木材の世界でも考えなければいけないと思います。

東吉野村の坂本さんの試みは大変刺激的で興味があります。私の資料説明の中でも移住の例について触れていますが、来年以降、移住することを大きな政策の柱としていきたいと思っています。意見発表であったように、クリエイターの方に移住してもらうことは大変ありがたいです。あるいは、芸術家もいいのではないかと思います。そのような方々が住みやすいように、仕事がしやすいようにするにはどのようにすればいいかということが一つの課題です。インドのバンガロールには世界的なITヴィレッジがありますが、そこでは24時間何でも調達できる大きな村に発展しましたので、奈良もだんだん移住してもらい、ITを利用したビジネスができればと思います。

もう一つ大事なことは、発信して交流に出かけなければなりません。リニアが奈良に来ると、大阪に近いということではなく、東京に近いということになります。東京から世界に近いとなると、世界のハイレベルな方がこの田舎まで来る、今までは来るためにどこかで1、2泊しないといけなかった地域からもすぐ来れるというリニアの意義は、クリエイティブな仕事の人にとって、とても意義があると思います。

また、移住してもらう方全体について、都市に近くて交流しやすくても、移住する時に地域との折り合いがどこでも課題になります。奈良はどうなのかと心配しています。地域の掟とのバッティングは、いつ、どこでもあるものなので、移住される各地域内で異質な方に寛容で緩やかな精神が育つことも大事だと思います。移住しやすいと言われる地域は日本でもいくつかありますが、それらは日頃から交流が盛んな地域です。そのように移住しやすい地域で、メンタル面での環境が良くなればいいと思います。

最後に、ゴルフ場は運動のためのものでもありますが、ゴルフ場をもっと地域のために利用できないかと思っています。月ヶ瀬では新年会をゴルフ場のレストランでするようですが、地域の外から来る方のためのゴルフ場ではなく、ゴルフ大会やレストランなど、地域の方が利用するゴルフ場にならないかと思っています。

意見⑦	<p>井上氏(宇陀市在住 女性)</p> <p>宇陀市長からもお話がありました。健康づくりのための運動教室やイベントの開催に対して、まだまだ参加率が低いのが現状です。この参加率をどのようにして引き上げていくかが、大きな課題になっていくと思います。また、健康づくりの三本柱といわれる筋力トレーニング、ストレッチ、有酸素運動といった運動を効率良く行っていただけるプログラムを検討し、幅広い年齢層に受け入れていただけるような運動スタイルを提案していきたいと思っています。</p> <p>荒井知事からもエアロビクスのお話が出ていましたが、エアロビクスは本当に効率の良い有酸素運動です。何となく若い方がするイメージを持たれがちですが、最近の運動教室では定年退職した男性も音楽に合わせて、気持ちよく体を動かしておられます。そのあたりの運動もうまく取り入れながら幅広く健康づくりを提案していくと同時に、そのような教室に参加できない方に向けて、いかに生活の中で健康意識を高めていただくかということも大きな課題ではないかと思っています。</p> <p>車を利用しやすい過疎地域の方々でも、ちょっとした意識の変化で身体を動かすことができます。例えば、買い物に行った時に、少しでも遠くの駐車場に車を止めて歩数を稼ぐとか、家事をするついでに筋力トレーニングを組み合わせるということも十分可能だと思いますので、そのようなことについても、今後、ぜひ積極的に提案していきたいと思っています。</p>
意見⑧	<p>東氏(山添村在住 男性)</p> <p>先ほど報告した3つの取組をうまくつなげて、都市住民との交流を通し、耕作放棄地の解消と地域の活性化を図っていききたいと思います。まだ始めたばかりで、活動のノウハウや一緒に活動する指導者も不足していますので、引き続き、行政からの情報提供や情報発信をよろしくお願い致します。</p> <p>活動していくためには仲間が必要です。ちょうど同年代の方々が今年退職を迎えますので、同級生に呼びかけたところ、4、5名が賛同し、今度から一緒に活動することになりました。この仲間たちが、かけがえのない友人です。私の悪いところをよく知っていて、またそれを補ってくれる仲間ですので、多ければ多いほど楽しく取り組みますし、山添村への定住促進にも夢を膨らませたいと思います。</p> <p>まだまだ軌道に乗っていない取組ですが、奈良県、そして山添村からさらなる助言をいただきながら、一生懸命取り組んでいきたいと思っています。</p>
意見⑨	<p>森田氏(曾爾村在住 男性)</p> <p>曾爾村副村長から食品加工の事業の拡大を考えていくという話がありましたし、また知事からは桜井に料理人の研修センターを予定しているということで、大変心強く思います。</p> <p>観光事業は、どうしても観光資源そのものに頼りがちですけれども、それだけではなかなかお客様は定着してくれません。一番強いのは食の面です。レストランの充実がお客様をリピーターとして呼ぶ力を持っていると思いますので、今後とも曾爾村で出来た野菜や食材を使ってレストランでいいものをつくる、あるいは加工品をつくるという形で、自然の観光資源だけでなく、そのような人の力でお客様を呼ぶことにもさらに力を入れていきたいと思っています。</p>

意見⑩	青海氏(御杖村在住 男性)
	<p>森林経営計画の緩和について、先月東京都の全国森林組合連合会で、色々と勉強会をしまして、その時に奈良県や県選出の国会議員の配慮により、林野庁から地域の実態に即した森林経営計画の見直し措置を検討する方向だと聞きました。</p> <p>森林経営計画に基づき造林補助事業を活用し間伐を実施する場合、6齢級以上は間伐材の搬出が義務づけられています。先の台風12号により、既設の作業路がほとんど利用できないまま現在放置されています。林業がピークの時には山林所有者が自力で復旧していましたが、厳しい木材価格の下落により、災害復旧の受益者負担ができない状況です。最近では支援交付金事業も活用して森林組合で災害復旧をしてきましたが、森林経営計画を立てなければ支援交付金事業が適用されませんので、作業道の災害復旧に対して、県や村からも助成をお願いしたいと思います。</p> <p>また、若者の定住についても意見発表しましたが、御杖村森林組合では平成9年に山村振興事業の助成を受けて間伐材加工センターを建設し、間伐材の有効利用、林業後継者と過疎対策を目的に働く場をつくり現在に至っています。今から15年前になります。林業に全然関係がなかったIターンの方を6名採用し、森林整備から木材加工まで全て林業の技術を習得して楽しく働いています。15年経ちましたので、既に後継者も40歳前後になりました。安心して働く職場があれば、若者が村に戻り、定住してもらえんと思いますので、ご協力よろしくお願ひします。</p>
意見⑪	坂本氏(東吉野村在住 男性)
	<p>一度田舎に拠点を移して働き出すと、知事、東吉野村長を始め、先輩たちから色々助けてもらっています。このような職場環境は本当に素晴らしいと思いますし、もっと若い人たちに都会から田舎に来てもらい、このような環境で年配者の方々の力を借りて働ける場所があることを、「クリエイティブヴィレッジ構想」を通して広めていきたいと考えています。先ほどのリニアの話もそうですし、都会で働くだけではなく、田舎でも素晴らしい環境の中で新しく仕事を創出していけると感じていますので、これをもっと若い人たちに広めていきたいと思っています。</p> <p>若い人たちの間で足りないのは、圧倒的に人脈や経験ですので、その辺りの部分を県や自治体の方々にお手伝いいただき、この構想をもっと広めていきたいと思っています。</p>
意見⑫	竹内宇陀市長
	<p>地域で生活できる場の根幹は生活であり、雇用であり、産業振興ではないかと思っていますし、生きがいではないかと思っています。しかし、大きく踏み出すことが困難な状況が地域の経済の中にあります。</p> <p>そうした中で健康を一つのファクターとして取り入れ、市民の方々と意識を共有しながら地域の産業振興や雇用の創出をつくっていききたいと思っています。その第一歩がまちづくり協議会だと思ひますので、まちづくり協議会を通じて地域の方々と意識を共有しながら頑張っていきたいと考えていますので、よろしくお願ひします。</p>
意見⑬	窪田山添村長
	<p>県では「なら健康長寿基本計画」があり、山添村では「健康山添21」という計画があります。宇陀市の井上さんが健康運動指導を25年間続けてきたという話は大変参考になりました。</p> <p>山添村でも、グループごとに昼間あるいは夜も歩こう会で健康を保持していこう、病気にかからないようにしようと団体が取組を行っていますが、そのようなこともこれから必要だと思ひます。病気にならなければ医療費も少なくて済みますし、また国民健康保険税も安くなりますので、まずは健康が第一だと思ひます。</p> <p>山添村も5つのスローガンを挙げていますが、何と言っても健康でなければ何も出来ませんので、まずは健康で暮らしやすい村づくりから始めていききたいと思ひますし、県にも色々ご支援、ご指導いただくようお願ひします。</p>
意見⑭	徳田曾爾村副村長
	<p>森田さんから意見発表があつたように、もてなしと食の充実について、行政もお互い協力しながら、より充実したものに取り組みたいと思ひます。</p> <p>また、自然資源の中で、曾爾高原のススキについても生育が悪くなっているという話を聞いていますので、行政としても取り組みたいですし、県の協力もいただきながら自然資源を守っていききたいと思ひます。</p>

意見⑮	<p>鈴木御杖村長</p> <p>御杖村森林組合では、森林組合の職員が山の仕事を全てやってくれていますが、段々高齢化していますので、次の新しい人材の確保に共に努めていきたいと思ひます。</p>
意見⑯	<p>水本東吉野村長</p> <p>坂本さんの「クリエイティブヴィレッジ構想」については、大いに歓迎したいと思ひます。一緒に話し合いをする場を設け、共にやっていきたいと思ひます。3世帯の方に来てもらいましたので、これらの方々を核に取組を進めていきたいと思ひます。</p>
意見⑰	<p>荒井奈良県知事</p> <p>多角的な意見をいただき、ありがとうございました。</p> <p>県は、この地域をどのようにして振興させるか、地元の市長、村長とチームをつくって懇話会、検討会を始めていますので、今後とも継続的に地域振興の議論を進めたいと思ひます。大いに参考になりました。</p> <p>また、宇陀市の井上さんの話にあるように、健康でも運動教室に参加される方があるということで、健康への関心が高まっていると思ひます。外出してもらつ機会をつくるためにはイベントが必要だと思ひます。奈良マラソンも、みんなが話しているから自分も応援に出ようというような動機もありますので、イベントがあればいいのではないかとと思ひます。</p> <p>来年は「第34回全国豊かな海づくり大会～やまと～」がありまして、川上村と大淀町が会場になりますが、南部全体が注目を浴びる大会になると思ひます。とてもビッグな大会ですので、これを機会に南部に焦点を当てたプロモーションをしたいと思ひます。</p> <p>先日、南をにぎやかにしようと「なんゆう祭」を大滝ダムで開催しましたが、来年は「大なんゆう祭」を開催し、南全体が祭一色になるようインパクトをつけ、その時に来た人がリピーターとしてまた来ますというようにしたいと思ひています。「なんゆう祭」でも、B級グルメですが食を大きなテーマにして楽しんでもらいました。</p> <p>最後に都市からの移住についてですが、これは県外からだけでなく県内から移住してもらつことも考えればいいと思ひます。最初からすぐに移住するには決断が必要ですので、半移住でちょっと田舎暮らしをしてもらい、ここで職もつくれる、住むこともできると、段々田舎での生活に重点を置き、都市生活を軽くして従たる生活に転換していくように、段階的に移住できたらと思ひます。ロシアのダーチャ(田舎の邸宅)のようにして、週末をダーチャで過ごし、そのうちに週末に町に帰って買い物するという生活スタイルになればいいと思ひます。</p> <p>そのためには受け皿がいりますが、受け皿がある時にはその案内窓口を県がつくつて移住できるよう案内してもいいですし、それぞれの村で受け付けてもらつてもいいですが、県は移住大作戦をしていると大きな看板を掲げて動き出すことも一つのやり方だと思ひました。</p>
総括	<p>奈良県立大学地域創造学部 麻生教授</p> <p>県を始め各自治体で今日いただいた意見を活かしていただければ、今日のフォーラムが非常に活きたものになると思ひます。</p> <p>総括としてですが、住民の方々からの意見として、安心安全な暮らしを保証する、元気で健康なまちづくりというように、暮らしというものが、暮らしやすさの中では非常に重要だと思ひます。また、その上でソーシャルミニマムと呼ばれる最低限の生活基盤や防災などへの強化についても今後取り組んでいき、そのようなまちづくり、村づくりと呼ばれるものを通じて、誰もが住みやすい地域に変わっていくのではないかとと思ひます。</p> <p>最後に、今日の話の中で、交流、特に地域交流という言葉が一番大きなテーマとして出てくると思ひます。今、どの地域も高齢化が進んでいます。孤立化や無縁社会と呼ばれる言葉がよく出てきていますが、歳をとればとるほど地域との交流が非常に少なくなつてきます。</p> <p>将来生きがいを持ってその村で暮らしていくためには何が必要なのか、やはりそこには地域での交流が不可欠だと思ひます。もちろん地域内だけではなく、地域外からの交流も含めてやっていくべきです。特にリタイヤした後でも、これまで自分たちが培つた技能や技術をその地域で開花できるようなあり方といったことも、今後のまちづくり、村づくりにとって非常に必要なものではないかと感じました。</p> <p>皆様方の貴重な意見を聞いていますと、この大和高原(東吉野)地域が今後とも積極的に前向きに動いていくのではないかと、非常に明るい見通しで意見を聞かせていただきました。</p>

挨拶	荒井奈良県知事
	<p>麻生先生が話されたように、田舎は不便で難しいというイメージが先行していますが、これから難しくなるのは大都市ではないか、困難な状況がたくさん発生するのは大都市ではないかと思えます。</p> <p>こちらが幸せになるわけではないですが、田舎で暮らしていると、手の入れ方で随分良くなる場所があると思えますし、高齢化が進んでいる一方で、道路も良くなっています。</p> <p>行政は、皆さんの声、あるいは地域の魂に耳を傾け、どういう知恵をいただけるか謙虚に努めれば、すぐに実現できなくても必ずいい方向でいい地域ができます。努力の差で地域ごとに随分違って来る状況にありますが、この地域が遅れをとらないように肝に銘じて頑張っていきたいと改めて思えるフォーラムでした。ありがとうございました。</p>